

病院に働く看護師が受ける暴力に関する要因の分析

著者	清水 房枝
発行年	2007-03-26
URL	http://hdl.handle.net/10422/422

氏 名 (本籍)	清 水 房 枝 (滋賀県)
学 位 の 種 類	修 士 (看護学)
学 位 記 番 号	修 士 第 8 9 号
学位授与年月日	平成19年3月26日
学位論文題目	病院に働く看護師が受ける暴力に関する要因の分析

論文内容要旨

※整理番号	31	(ふりがな) 氏 名	しみず ふさえ 清水 房枝
修士論文題目	病院に働く看護師が受ける暴力に関する要因の分析		

近年、保健医療施設における暴力対策の必要性が高まっている。医療の現場において看護師が暴力を受けることは、個人の尊厳や専門職としての看護師の自尊心を脅かし、患者へのより良い看護の提供を阻害する。

本研究の目的は、病院で働く看護師が患者から受ける暴力の実態調査を通して、病院で起こる暴力の要因を明らかにし、予防に向けた知見を得ることである。

A 県の看護部長の協力を得て、看護師 15 名に半構成面接法による面接調査を行った。逐語録をデータベースとして、KJ 法を参考にして内容の分析を行なった。

分析の結果抽出された、上位テーマは、【暴力の内容】、【なぜ暴力は起こるのか】、【暴力への対処】の 3 つで構成された。それぞれの上位テーマは、【暴力の種類】【暴力の頻度】、【暴力行為者が持つ背景】【暴力の対象者が持つ背景】【病院環境が持つ背景】【暴力を振るう患者への対応】、【暴力を受けた看護師への対応】の 7 つの中位テーマから構成された。それぞれの中位テーマから、《身体的暴力》、《言葉の暴力》、《暴力は同一者により複数回起こった》、《暴力は同一単位の複数看護師が受けた》、《暴力は 1 回で終結した》、《暴力行為者の前歴》《病気による苦痛》、《入院によるストレス》、《看護師業務への認識》、《攻撃におびえる》、《攻撃性を示す態度》、《コミュニケーションの未熟さ》、《看護特有業務》、《生活空間・場所》、《社会との隔離》、《少ない人員》、《看護師の対応》、《医師の対応》、《病院の対応》、《看護師の感情》、《看護師へのサポート》の 21 の下位テーマで構成されていた。

看護師が受けた患者からの暴力の内容は、身体的暴力と言葉による暴力であった。暴力は 1 回で終結するものや、暴力は複数回起こるものがあつた。病院は様々な文化背景を持つ者が入る所である。暴力行為を起こした患者を見ると、過去に暴力で問題解決を図り、暴力により利益を得ていた暴力の前歴を持っていた。また、病気による苦痛や入院によるストレス、病気の不安や制限された生活やプライバシーの確保できない環境から、緊張状態を維持させフラストレーションに陥る可能性が考えられた。暴力を誘発した看護師は、暴力を受けた患者に恐怖をもち、患者の言われるままに、暴力で利益を得ることに価値を持つ前歴者の暴力の標的になっていた。また、患者の要求を受け入れず、看護師が説明や注意をすることは、緊張状態にある患者の暴力を誘発した。コミュニケーションの未熟な看護師は、患者の意に添わないため、患者の攻撃心を増強させる。

患者の入院環境である病棟は、社会と隔離された集団の生活空間であり、患者治療を受けながら居住している。患者は病気や入院により緊張状態にあり、この生活空間に、さらなるフラストレーションを起こす。それらが相互に関連して暴力が起こったと考えられる。個室は患者と看護師の対面業務が実施される。こうした環境は、拘束する社会絆が弱い人間が暴力にコミットしやすい環境であつたと考えられた。患者の要求に応える業務量に比して、夜間の看護体制は人員が少なく、患者の要求にすぐ応えられない現状があり、待たせることや話を聞いてもらえない不満が暴力を生む。人は集団生活の規範に守られて犯罪を制御しているが、病院は一般社会から隔離された状態にあり、社会絆が弱く暴力が起こりやすい環境にある。

暴力を受けた看護師は様々な感情を持つ。陰性感情は、患者対応に影響し暴力を生む。こうした看護師へのサポートのあり方は、看護師の自尊感情や専門職としての尊厳を左右する。暴力行為をした患者への上司の対応は、その内容により看護師の感情へ影響をあたえていた。